バリューチェーンマネジメント

バリューチェーンにおけるそれぞれのステークホルダーと相互の信頼関係を築き、 ともに持続可能な発展を遂げることを目指しています。

高品質・安全な製品

基本的な考え方

当社は1998年の発足時に経営方針に基づいて品質 方針を定めました。そののち、行動指針を解りやすく表 現した内容を加えて改定し、組織全体への周知に取り組 んでいます。品質方針には、従業員一人ひとりが積極的 に活動を行うことで達成感を共有し、確かな技術と品質 保証体制により、高品質な製品・サービスを提供するこ とで、お客様に信頼され、期待される企業であり続ける という思いが込められています。

品質方針

従業員一人ひとりがグローバルな視点に立ち、地球環 境保全に配慮した製品とユーザーニーズに応える品質 を追求し、社会への貢献と顧客満足度の向上に努める。

方針を実現するために

- 品質方針に基づき、具体的な品質目標に展開し、社 内に周知徹底を図る。
- 2 品質目標達成に向けて、総力を結集してポジティブ に業務を遂行する。
- 3 顧客満足度および品質目標の達成度を確実にレ ビューする。
- 4 品質マネジメントシステムおよび製品の継続的な改 善を推進する。

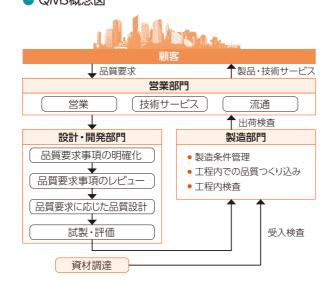
品質マネジメント

当社では長期にわたって培ってきたプロセス管理技 術ならびに品質管理技術により、製品品質の安定ならび に向上に取り組んでいます。具体的には原料・クリンカ・ セメントのオンライン自動分析システムの活用やX線回 折によるクリンカ鉱物の測定、当社独自で開発したTQPS (太平洋セメント品質予測システム) などの先進的技術 を活用した品質管理を行っています。また、廃棄物なら びに副産物の有効活用などによって地球環境保全に配 慮したセメント製造に努めています。

グループ会社を含めたISO9001の取得率は、国内の ポルトランドセメント製造事業所で100%です。海外に おいても、ISOを主流とする国のセメント製造事業所で は100%となっています。「各種セメント製品、各種クリ ンカ製品、各種セメント系固化材製品の設計・開発およ び製造 | を登録範囲としてISO9001 (JISQ9001) の認 証を取得し、品質マネジメントシステム(QMS)の構築と 運用によって品質保証を確実に行うとともに業務の改 善に取り組んでいます。

今後もISO9001の仕組みを積極的に活用することで、 「お客様のニーズに応じた製品の供給」と「顧客満足度 の向上」への取り組みを充実させていきます。

QMS概念図



セメントの安全性

昨今、あらゆる製品に対し安全・安心が求められてお り、社会インフラ整備に欠かせない建設資材であるセメ ントもその例外ではありません。セメント業界では、天 然資源の代替として以前より高炉スラグ・石炭灰・副産 石膏などの産業系廃棄物・副産物を活用していますが、 当社はAKシステム(都市ごみのセメント資源化)、焼却 残さ資源化システムなどの技術開発により生活系廃棄 物のほか、建設発生土、建設廃材などのセメント資源化 も行っています。廃棄物をセメント工場に受け入れるに あたり、廃棄物の搬入・一時保管は密閉型のトラックや 置場を使用するなど、飛散防止や悪臭防止を図り、周辺 地域や工場内の環境保全に努めています。

また、天然資源に含まれる重金属類の管理は従来か ら一定の基準を設けて行っていますが、廃棄物の受入 量増加にともない、微量成分の管理徹底を継続してい ます。新規廃棄物の受け入れにあたっては発生元情報、 化学成分、試験使用結果に基づく3段階の検査を行い、 製品の品質や周辺環境に影響を及ぼさないことを確認 した後に受け入れ可否の最終判断をするなどルール化 を徹底し、製品の安全性を確保しています。

放射能事故に対する製品の安全性の確保

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響によ り、2011年にセメントの原料として使用していた一部 の産業廃棄物について特定の放射性物質が検出されま した。当社は使用するセメントの原燃料の放射能濃度を 厳重に管理することで、国が定める安全基準*を確実に 下回るセメント製品を出荷する体制を整えており、その 測定結果については毎月ウェブサイトに掲載するなど 情報公開に努めています。

※2011年5月以降 国がセメントの放射能連度にかかわる安全基準について ク リアランスレベルを100Bg/kg以下と定めています。



セメント製品の放射能測定結果については 当社ウェブサイトをご参照ください。

https://www.taiheiyo-cement.co.jp/csr/fair_ trade fr.html#section02



SDS・ラベル表示による情報提供

セメント製品をより安全にご使用いただくため、当社 は危険有害性情報を記載したSDS (安全データシート) をウェブサイトに公開し、袋・フレキシブルコンテナバッ グ製品に対してGHSラベルを表示しています。

● 普通ポルトランドセメントの微量成分含有量の推移

			(単位:mg/kg					
		1987年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
フッ素	平均	-	427	435	409	395	461	
	最大	_	504	578	512	449	557	
	最小	_	355	337	326	311	396	
全クロム	平均	_	77	84	79	75	79	
	最大	_	95	95	85	88	92	
	最小	_	64	75	73	65	63	
_1 / 3 0 3 141	平均	17.4	8.6	7.9	8.0	7.1	6.4	
水溶性 六価 クロム	最大	32.3	11.4	9.8	11.1	8.9	7.2	
	最小	5.3	5.4	6.6	5.5	5.9	5.6	
	平均	556	600	554	609	560	551	
亜鉛	最大	1059	772	677	734	742	702	
	最小	137	449	493	464	434	422	
	平均	221	62	63	66	61	54	
鉛	最大	668	84	77	88	82	72	
	最小	18	38	43	39	43	37	
	平均	122	274	263	267	253	253	
銅	最大	233	415	359	442	404	365	
	最小	17	163	181	168	159	138	
	平均	17	18	13	15	14	15	
ヒ素	最大	39	47	28	47	39	54	
	最小	2	6	7	6	6	ND	
	平均	_	0.5>	0.8	0.8	0.7	0.7	
セレン	最大	_	0.5>	0.9	0.9	0.8	0.9	
	最小	_	0.5>	0.6	0.5>	0.5>	0.5	
カドミウム	平均	1.5	1.3	2.0	1.7	1.5	2.0	
	最大	2.6	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0	
	最小	0.6	1.0>	1.0>	1.0>	1.0	1.0	
水銀	平均	_	0.005>	0.007	0.010	0.008	0.010	
	最大	_	0.005>	0.011	0.020	0.012	0.020	
	最小	_	0.005>	0.005>	0.005>	0.005>	0.005>	

責任ある調達・供給

基本的な考え方

当社は取引先をともに成長するパートナーと考えています。相互の信頼関係を構築し協働していくために、公正な契約に基づいた取引を行うことはもとより約束の遵守を徹底します。公正な取引を確かなものとするため、行動指針の「法令等を遵守するとともに、社会の良識に則って行動します。」を受け、行動基準の「社外との誠実な関係づくり」の項では、基本方針を定め、サプライチェーンマネジメントを実施しています。

基本方針

- 談合やカルテルなどのない、公正な市場取引、入札を実施します。
- ② 協力会社との適正で透明なパートナーシップを保持 します。
- 3 公正・公平に取引先を選定します。
- 4 節度ある接待・贈答を行います。
- 5 正直で誠実な、宣伝広告・表示・説明を行います。
- 6 お客様の声に適切に対応します。
- 7 政治・行政との透明な関係を保ちます。
- 3 事業を展開する地域の文化、慣習を尊重します。

加えて②協力会社との適正で透明なパートナーシップを保持します。③公正・公平に取引先を選定します。を確かなものにするために取引先に倫理的行動をお願いする、購買基本方針を2017年10月に定めました。



「太平洋セメント購買基本方針」については 当社ウェブサイトをご参照ください。

https://www.taiheiyo-cement.co.jp/csr/fair_trade fr.html#section06



また、贈賄行為に対する国際的な規制強化に対応し、 腐敗防止の取り組み強化に向ける節度ある接待・贈答を行います。②政治・行政との透明な関係を保ちます。 をより確かなものにするために、反贈賄に関するトップ メッセージを宣言すると同時に反贈賄基本方針(ポリシー)を2017年1月に定めました。



「反贈賄基本方針」については 当社ウェブサイトをご参照ください。

https://www.taiheiyo-cement.co.jp/csr/fair_trade fr.html#section06



パートナーの状況

当社はセメントならびにコンクリートに関連する事業を主要なものとしています。これらは石灰石を主要な原料としていますが、石灰石鉱山の運営・管理など多くの部分はグループ会社によって担われています。一方、熱エネルギーかつ原料の一部となる石炭はグループ外から調達しています。また、セメント製造工程の廃棄物・副産物のリサイクルにおいては、多様な産業や地域との取引があります。

製造部門の多くは機械化され、労働集約的な工程はほとんどなく、生産設備の維持管理などについては、必

要に応じて協力会社に外注しています。

セメントは主に生コンクリート会社・建材販売会社へ 販売されており、原料ならびに製品の輸送は、グループ 会社と外部に委託しています。

事業活動においては、事業拠点の立地国、地域行政 とコミュニケーションを密に取り、特にサプライチェーン において強制労働、児童労働の禁止といった人権尊重 や、法律の遵守を必須としてさらに要望に応えられるよ う努めています。

製造現場で働くパートナーの安全

セメント製造現場や鉱山の採掘現場での作業は、機械化が進んでいます。また、高所や高温にかかわる作業があるため、作業に関する安全の確保が安定操業のために欠かせません。製造現場で働く協力会社の従業員

には入構教育をはじめとする各種教育、安全計画を含む作業計画書の提出ならびに計画に関する指導を通し、 事故なく作業できるよう努めています。

顧客との関係の強化

「顧客満足度の向上」を最重要課題と捉え、各部門間で定期的に情報交換ならびに連絡会を実施し、ユーザーのニーズに応える製品づくりを徹底しています。

ユーザーからいただいた製品品質やデリバリーなどのサービスに関するご意見ならびにご要望は、営業部門や技術部門が窓口となって情報収集し、分析と改善を行ってフィードバックするように努めています。また、海外のお客様に対しても、ニーズを製品品質に取り込み、お客様に応じたきめ細かい製品供給を行っています。今後もお客様から寄せられたご意見ならびにご要望の一つひとつに真摯に対応し、さらなる製品品質の改善と顧

客満足度の向上に努めます。

潜在的な品質リスクについても積極的に抽出するとともに、それぞれの課題について原因追究と対策および横展開を徹底し、さらに安全・安心な製品供給に努めます。

当社製品だけでなく、グループ会社の製品について も品質保証体制の向上に取り組んでいます。各部門横 断で活動を進め、重要課題の抽出や解決に組織的に取 り組むことで太平洋ブランドへの信頼感と顧客満足度 の向上に努めます。

各種ユーザー会・工業会活動

当社ではセメントユーザーにおける事業の活性化、技術競争力の構築などを支援するため、各種ユーザー会・工業会を設立・運営しています。このうち、最大規模のユーザー会である「全国太平洋セメント生コン会」は、北海道から九州まで10地区で構成され、様々な活動を行っています。技術的な取り組みとしては、技術懇談会・発表会の開催、地区事情にあわせた特定テーマ活動のほか、コンクリート技士・主任技士・診断士の資格取得支援に注力しています。

生コン会のほか、コンクリート製品会社間の相互発展を目的として「太平洋セメント舗装ブロック工業会」、「スプリットン工業会」などを設立して積極的な技術支援を行っています。今後もユーザーの皆様にとって有意義な支援活動を推進していきます。

全国太平洋セメント生コン会の活動例

地区	内容
北海道	安全衛生に関する改善事例コンテスト実施
東北	マネジメントレビューの進め方・実施例のとりまとめ実施
東京	設備担当者研修会(Web)の開催
関東	コンクリートフォーラム (Web:オンデマンド 形式)の開催
北陸	低炭素化コンクリートの試し練り実施
中部	JIS A 1132:2020 「コンクリートの強度試験 用供試体の作り方」に対応した講習会の実施
関西	生コン基礎資料調査とモデル基礎資料の作成
四国	コンクリートの品質管理に関する基礎講習会の開催(対面・Webハイブリッド開催)
中国	方針管理に関するアンケート調査実施
九州	「コンクリート関連試験の手引」の発行

太平洋セメント舗装ブロック工業会の取り組み

太平洋セメント舗装ブロック工業会は2003年の設立以来、コンクリートブロック舗装の設計や製造・施工技術に関する情報交換、新製品・新技術の開発を通じて、ブロック舗装の普及を目指しています。

近年は労働力不足が大きな課題となっており、舗装ブロックの施工量を維持・拡大するために、生産性の向上や省力化へ早期に対応することが求められています。当工業会では機械化施工の普及とブロック舗装の生産性向上を目指して、機械化施工見学会の実施など全国の会員と協力して取り組みを進めております。

また、SDGsへの対応も積極的に行っています。ブロック舗装はヒートアイランド対策や高い耐久性からライフサイクルコストの低減と重荷重舗装にも対応できる機能をもっており、環境負荷低減に貢献できます。このため発注者や市民の方にも理解が得られるよう宣伝活動にも注力しています。

当工業会は、ブロック舗装の適用拡大・普及活動をより精力的に展開することで社会に貢献していきます。

ステークホルダーエンゲージメント

当社グループは、セメントならびにコンクリートに関連する事業を主要なものとしています。 事業活動においては、株主・投資家、地域社会やお客様・お取引先、さらには従業員といったステークホルダー とのコミュニケーションを密に取り、法律の遵守を必須としてさらに要望に応えられるよう努めています。

基本的な考え方

持続可能な企業であり続けるためには、多様なステークホルダーからの期待・要請に応えて社会的責任を果たし、良好な関係を築き続けることが必要不可欠であるとの考えに基づき、適時適切な情報開示やステークホルダーとのコミュニケーションを促進しています。

今後も、ステークホルダーから寄せられるご意見やご 要望をより経営に活かすよう努めるほか、企業にとって 最大の資本である従業員が活き活きと働くことができ るよう、人的資本経営をより一層推進していきます。

ステークホルダー	ステークホルダーの関心事項	実績(2022年度)	今後の課題
\$ € 株主・投資家	財務戦略適時適切な情報開示当社事業や経営理念サステナビリティ	 ■ IR活動実績 ・決算説明会(Web同時配信) 3回 ・IR個別ミーティング 160回 ・IRカンファレンス 1回 ● 統合報告書発行 1回 	株主・投資家の視点の反映株主・投資家と経営層の直接対話の促進適時適切な情報開示と市場からの適正な評価の獲得
地域社会	地域社会とのエンゲージメント生物多様性環境負荷の低減国土強靭化への貢献水源保全	 ● 地域社会とのエンゲージメント実績 2,538件 ・地球環境保全活動 1,253件 ・地域文化・交流の活性化 988件 ・地域の発展 146件 ・教育・人材育成 119件 ・災害支援 4件 ・その他 28件 	● 地域のニーズをふまえての活動の模索
お客様・お取引先	 カーボンニュートラルの実現 企業倫理・コンプライアンス リスク管理(危機管理) 循環経済実現への貢献 環境配慮型製品の普及 持続可能なサプライチェーン 	 セメント製造工程におけるCO₂排出削減の取り組み コンプライアンス基本方針・反贈賄基本方針に基づいた事業活動 産業界、地域社会との資源循環 廃掃法に基づく国内直轄6工場の維持管理情報の開示:毎月 全社環境マネジメントシステム (工場、本社、支店、中央研究所を含む)によるISO14001の取得 ISO9001の取得:国内100%、海外ではISOを主流とする国のセメント製造事業所では100% 各種ユーザー会・全国太平洋セメント生コン会:国内10地区において個別活動を展開・太平洋セメント舗装ブロック工業会・スプリットン工業会 	 「カーボンニュートラル戦略2050」に基づく取り組みの推進 グループ全体でのコンプライアンス遵守および反贈賄の徹底 グループ環境目標(CO₂排出および主要大気汚染物質排出の削減)の達成 太平洋ブランドへの信頼と顧客満足度の向上 ユーザーのニーズに応える支援活動の継続
従業員	 安全で健康な職場づくり ダイバーシティ&インクルージョン 人材育成 人権の尊重 グループガバナンス DX推進 	 全社安全保安衛生委員会によるKPIを設定した安全推進活動 女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」に基づいた取り組みの推進 障がい者雇用の促進:法定雇用率を上回る実績(16年連続) 国連グローバル・コンパクトに署名:2022年5月 ワーク・ライフ・マネジメントの促進 健康経営の推進:定期健康診断(1回/人)、ストレスチェック(1回/人)、メンタルヘルス相談窓口(随時) 	 安全に関するKPIの達成 CSR目標2025 (ダイバーシティ) 達成に向けた取り組みの継続 各事業所におけるバリアフリー化の促進 サプライチェーン全体における人権リスクの特定

コミュニティ

当社グループの事業は、地域の皆様と心を一つにすることで成り立っています。 常に感謝の気持ちを忘れず、共に歩むことを何より大切にしています。

基本的な考え方

当社グループは、国内外の事業拠点のある地域にお いて社会的責任を果たすことにより、社会・環境価値を 創出し、持続可能な社会と事業の持続的な発展に寄与 できると考えています。地域社会との積極的なコミュニ ケーションを通じてニーズや課題を把握し、当社グルー プの事業特性を活かした貢献を行うことで、地域社会と の信頼関係を築き、ともに成長していくことを目指して います。

活動項目	年間実施回数(回)	のべ参加人数(名)	活動事例
1 地球環境保全	1,253	1,778	住民説明会、環境報告会、環境モニター制度、 清掃活動、森林や地域の自然保護活動
2 地域文化・交流の 活性化	988	155,759	工場・鉱山見学、施設開放、 イベントの主催・参加・協力
3 地域の発展	146	3,898	資材の提供・重機の貸出、防災活動 地域医療・地域産業振興への支援
4 教育・人材育成	119	16,027	奨学金制度、技術者養成、 インターンシップ・職場体験
5 災害支援	4	17	救助活動協力
6 その他	28	207,711	献血協力



東北支店は、2022年10月に宮城県産業資源循環協 会仙台支部が主催した、大沼での「クリーン作戦」に参加 しました。空き缶、ペットボトル、ビニール袋や廃タイヤ など多くの廃棄品を回収し、杜の都仙台の美化に貢献し ました。



藤原工場で、地元消防署から藤原岳での火災・救助 などの緊急事案にともなう協力要請を受け、2022年度 は3回、鉱山道路を利用して署員を山頂付近まで送り届 けました。また、毎年実施される警察署・消防署合同の 山岳事故訓練にも協力しています。



龍振鉱業社では地元高校生のインターンシップを実 施しました。「総合的な探求の時間」の一環として、岩手 県立高田高等学校から2年生2名が参加し、会社概要説 明、保安教育の後、事業所見学やダンプ乗車といった就 業体験を行いました。



カルポルトランド社は、ネバダ州の小学校で実施され たハロウィンイベントに参加しました。飾りつけたミキ サー車の前で仮装した従業員が、700名以上の子ども たちにお菓子を配りました。子どもたちからはミキサー 車やコンクリートについて沢山の質問がありました。



カルポルトランド社は、カリフォルニア州の小学校で 開かれた「キャリアデー」に参加しました。環境管理、重 機運転、技術開発などのセメント産業の仕事について 説明し、カップの中でつくるコンクリートの実演をしま した。



タイヘイヨウセメントフィリピンズ社は、地域貢献の ひとつとして、近隣住民へ必要としている医療品の聞き 取りを行い、医薬品や医療器具の無料配布を行いまし た。